

日本工学院専門学校		開講年度	2019年度		科目名	番組制作 2	
科目基礎情報							
開設学科	放送芸術科		コース名		開設期	後期	
対象年次	1年次		科目区分		必修	時間数	60時間
単位数	4単位				授業形態	講義	
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。						
担当教員情報							
担当教員	高沢敦博				実務経験の有無・職種	有 映像制作	
学習目的							
映画・映像評論家とならずとも、製作者として正しい映像の見識を持ち、コンテンツを「主題」「脚本」「演出」「撮影技術」「演技」と視点を複数持ち鑑賞できるスキルを持つことを目的とする。							
到達目標							
学生が特に＜実習＞において学ぶ技術は、実際どういった場面で、どのように生かせるのか、より視覚的なアプローチで示す授業である。学生は様々な映画、TV番組、映像を解説付きで鑑賞し、撮影技法、演出方法を一体的に学ぶことになる。 映像から、それはどのようにどこから撮影されているかを想像し、理解することがひとつの目標となる。							
教育方法等							
授業概要	この授業では、個人ワークやグループワークを採り入れる。特にグループワークでは他人に気を遣い過ぎず、まず他人を傷つけることなく自分の意見を上手に伝えること、さらに相手の話をきちんと最後まで聞き、すぐに否定せず理解することを促す。そしてチームの意見としてまとめる努力をする。決して答えがあるわけではない映画を使い、習慣づけることを狙いとする。						
注意点	この授業では言葉を発することを促し、思っていること・意見を積極的に言えるようにし、多角的なモノの見方を学ぶので、学生同士の会話がある程度許容する。教員は、学生の勇気をもって発言した内容を否定しない。まず受け止め肯定し、いい点を褒める。次に反対意見、違う意見を求め、対話をリードする。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	0%					
	小テスト	0%					
	レポート	40%	着眼点のユニークさと論理性、リスペクトしているかを評価する				
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する				
	平常点	40%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する				
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	歴史と向き合う			伝えるということ　そしてメディアの仕事を考える			
2回	ヨーロッパとキリスト教			感性で受け止めることと、知識の使い方			
3回	リメイクとパロディと著作権			法的な背景と各国との違い			
4回	リメイクとパロディと著作権(2)			そしてその創造性を理解尊重することを学ぶ			
5回	ホラー映画			このジャンルのメリットデメリット　：グループワーク			
6回	日本におけるゾンビ			特異性とメイク技術を考える			
7回	設定をヒントにエピソードを考える			ベタな流れとは？　：グループワーク　～ 鑑賞			
8回	設定からストーリーを組んでみる			時系列の変化　：グループワーク　～ 鑑賞			
9回	現代映画の元ネタ			1960年代ヨーロッパ映画に見る主題の普遍性　：グループワーク			
10回	小説の映画化			村上春樹原作を韓国映画化した作品の国民性			
11回	アジアの映画①			レバノンにおけるパレスチナ問題			
12回	アジアの映画②			政府の検閲を経るイランの映画			
13回	アジアの映画③			タイのエンタテインメント			
14回	アジアの映画④			イスラエルとパレスチナ			
15回	女性の視点			女性原作＋女性監督＋女性カメラマン　女性ならではの視点と表現			